

富田弘一郎資料の保存と整理について

弘田澄人*・國司眞*

On the preservation and classification of Tomita collection

Sumito Hirota* and Makoto Kunishi*

1. はじめに

川崎市青少年科学館には、東京天文台講師であった故・富田弘一郎先生から受け継いだ膨大な資料がある。寄贈いただいた経緯と、現在までに整理、分類できた一部の資料について、その内容を報告する。

富田先生は1947年から東京天文台（現国立天文台）の天体掃索部に勤務され、広瀬秀雄氏らとともに小惑星および彗星の位置観測、掩蔽の観測、流星の同時観測による軌道決定などに携われた。ことに流星写真観測では1948年から川崎市西生田小学校の校庭に観測拠点を設け、三鷹の東京天文台との2点観測を実施した。この時、箕輪敏行氏をはじめ、後に川崎天文同好会を設立する多くの市民と大学生が観測に協力した経緯がある。

「観測の鬼」と言われた富田先生は太陽系小天体の観測の他、望遠鏡や観測装置の開発にも熱心に取り組まれ、月までの距離を正確に測るレーザー測距に取り組まれた。そして1985年に東京天文台を退官された後も、人工衛星追跡の専門家として活躍された。

また、ご自身の研究の他、後進やアマチュアの育成にも力を注がれ、天文書の執筆や天文雑誌で天体写真の評者として活躍された。先生の著書を読んで宇宙に興味を持った天文愛好家は大変多い。

本稿は富田先生から受け継いだ天文関係資料の整理と保存の状況および展望について報告する。

2. 寄贈の経緯

富田弘一郎先生は2006年5月にその生涯を終えられた。その後、川崎天文同好会の箕輪敏行氏を通じ、先生のご子息から膨大な天文関連の資料を青少年科学館と川崎天文同好会とに寄贈されたい意向であるとのご連絡をいただいた。さっそくご自宅に伺い資料の内容を確認した。

書籍と天文資料は6連で180cm幅のスライド式書架と6台の90cm幅書架に収められており、150個の資料保存

箱に梱包し、同年9月20日に青少年科学館への搬入を完了した。当初、科学館がすでに所蔵し重複する天文雑誌等の書籍は、川崎天文同好会で活用することを予定していたが箕輪氏の強いご希望で、すべての資料を科学館で受け入れることになった。

改築前の科学館には書庫が無かったため、番組制作室と天体観測室に書架と整理棚を設置し書籍類を収納した。また、書籍以外の天文資料については、仮設倉庫を設置し保管した。その後、科学館改築計画の進捗に伴い2回の引っ越しを経て、現在は研究管理棟の書庫と天体観測室に収納されている。

3. 資料整理の方法

書籍約1,000冊については「富田弘一郎氏寄贈」のゴム印を押印し科学館の他の蔵書とともに蔵書リストを作成後、書庫に収納した。図書の閲覧は研究管理棟事務室で申込みをすればどなたでも利用できる。

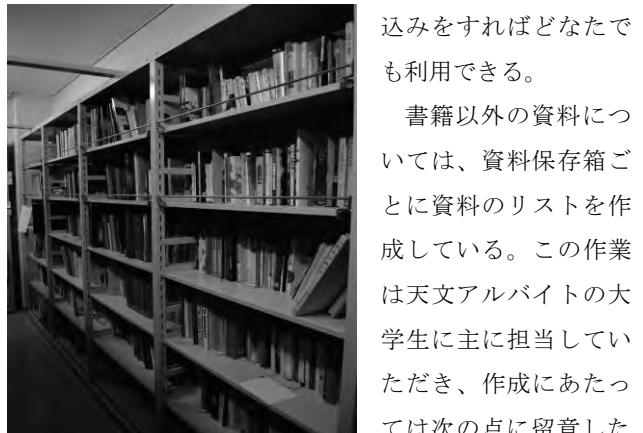


図1. 書庫に収納された書籍。

- ① 資料名は「富田先生資料」と記し、保存箱に番号を振る。
- ② 資料名、内容、研究分野、形状、取扱備考等について記入する。資料は天文分野の広い範囲における、太陽系の天体、人工衛星、測地観測、宇宙少年団の活動等

多岐にわたる。内容や形状についても論文、手紙、新聞の切り抜き、書籍のコピーなど様々な資料があるので、リストにその概要を記入する。

- ③ リストは保存箱の側面に張るとともに、中に1枚入れる。

富田先生資料		No.104		
No.	資料名	内容	収容内容 大本 人工作業 現物 現物 現物	物状 現物 現物 現物
1	微生物科学部書類	平成2年1月18日付便り	冊子	書類に記入された有
2	日本天文学会より	第50号～第53号、1934、土星の環の歴史記述アハルム	○	複数ファイル
3	川崎市星雲会議	(昭和3年1月1日～19日)参考資料(星雲のデータ)		オーディオ フィルム
4	日本電気会議	N.100		冊子
5	川崎小笠原小笠原	平成2年1月1日、生アスローラーで新星、電気学会平成2年1月1日付便り	○	未書きファイル
6	新星小笠原小笠原	新星小笠原小笠原用紙セイド小笠原名義にて提出、川崎市電気会議報告書		書類に記入された有
7	小笠原字小笠原星雲会議	平成2年1月1日、ハイ島アカネケン山口に記述する計画(未実現の星雲会議)	○	複数ファイル
8	川崎小笠原小笠原	(昭和3年1月1日～1月18日)金賞受賞、次回新規会議		複数ファイル
9	Dissertation by Hideto K. TOMITA	(昭和4年1月17日)ハーバード大学に記述する星雲、海王星渦潮報告		複数ファイル
10	新星会議 小笠原小笠原	天文学会小笠原星雲会議報告、天文会議、この年の星雲会議		未書きファイル(尚薄している)
11	新星会議 小笠原小笠原	(昭和3年1月1日～1月18日)新星に記述する星雲、海王星渦潮報告		新星会議に記入された有
12	小笠原シジム賞料	(昭和3年1月1日～1月18日)新星、アスローラーで新星報告書	○	複数ファイル(未記入)
13	富田先生誕辰40周年記念事業実行委員会アハルム	天文学会小笠原星雲会議報告書		白紙原
14	新星会議 第2回、王子	1981年3月～4月新星、日記、参考書類、小笠原		未書きファイル(小笠原 ファイルが記入されている)
15	新星会議 小笠原小笠原	出席者名簿、小笠原の観測の報告書について、「フレンチ先生の直轄収集の算定について」		新星会議に記入された有
16	第1回彗星会議	(昭和3年2月)会議書類		新星会議に記入された有
17	国立天文台 沿岸部	通航規則、監視、任命書、村らむかの監視規則	○	未書きファイル 色紙
18	新星会議	はざまーるの記録、日記、新規会議報告書		黄色ファイル
19	シニョリ・カララ地質変成岩書	日本学術会議会議録、新規会議報告書		未書きファイル
20	日本学術会議会議録	日本学術会議会議録(電子)、新規会議報告書		未書きファイル 河井
21	MU-コロニー(120)豆原	astronomy(日本)、フランス語		複数ファイル
22	オースチン・リード	オースチン・リードについての記録、星雲会議報告書		未書きファイル 色紙
23	リード	天文会議(アーチンソンの会議報告)		複数ファイル
24	CP-新星会議(1) (昭和3年1月)	新星会議報告書(日本)と星雲会議報告書、レシタラ・パソコンのカタログ、出席証の複数書類	○	複数ファイル 複数インデックス付いている
25	1月10日-1月12日	Koester-Bieden 曜星についてのノート		計画で読みである しめ、書きたり
26	1月13日-1月15日	Koester-Bieden 曜星についてのノート		材料で読みである (ノートの状態)
27	1月16日-1月18日	Koester-Bieden 曜星についてのノート		材料で読みである
28	1月19日-1月20日	Koester-Bieden 曜星についてのノート		計画で読みである ノートの状態
29	V.1948-1953	Koester-Bieden 曜星についてのノート、手稿		計画で読みである

図2. 資料リストの例 (資料保存箱 No. 104).

4. 特筆すべき資料

膨大な資料の中に1949年からの観測野帳が含まれており、ブラッシャー一天体写真儀の観測データ、掩蔽観測データ、流星写真儀の観測データ等がある。表紙に「Tokyo Astronomical Observatory Sky Patrol Section K. Tomita」の他、H. Kosai と記入された観測野帳もあり、東京天文台天体掃索部の香西洋樹氏の記録も含まれている。

また、流星写真儀の観測データには、三鷹の東京天文台と川崎市西生田小学校間で実施した流星の写真2点観測のデータも含まれている。その記録には川崎の標記があり、当時大学生で観測に携わった河原郁夫氏の名前が記されている。河原氏はプラネタリウム解説を60年続けられ、現在も青少年科学館で「星空ゆうゆう散歩」を担当されている。また、この観測は日本で初めて実施されたもので、川崎での観測場所整備に尽力された箕輪氏をはじめ市

域の皆さんの協力により実施された。そして、この観測が契機になり、川崎天文同好会が設立された経緯がある。



図3. 観測野帳の一部.

5. 今後の課題と資料の活用

富田先生の資料が科学館に搬入されてから10年以上の歳月が経過した。しかし、いまだに整理は完了せず、資料の全容が把握できていない状態である。進捗のスピードを上げるため、来年度は集中して整理実施日を設ける必要がある。また整理した資料を保管する場所についても、倉庫を整理し確保しなくてはならない。

資料の活用については、富田先生の業績展の開催が考えられる。また研究者にとって60年以上前の観測データは、時系列の変化を確認するための重要な資料となるので、資料リストの公開を視野に入れ整理する必要がある。

6. 謝辞

富田弘一郎先生の天文資料の寄贈及び整理にあたっては、箕輪敏行氏、内野 哲氏、川崎天文同好会の皆様およびアルバイトの大学生各位に多大なご協力をいただいた。ここに改めて感謝申し上げる。

7. 参考文献

- 富田弘一郎, 1964. 流星写真儀. 天文月報, 57(4): 75-77.
齋藤馨兒, 2006. 富田弘一郎さん追悼の言葉. 天文月報, 99(8): 471-472.